

## 平成 28 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 1 月 28 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・教授

申 請 者 名 董 彦文

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学会参加)
事 業 名	日本経営工学会 2016 年秋季大会の参加
事業実施期間	平成 28 年 10 月 28 日～ 平成 28 年 10 月 29 日
成 果 の 概 要	<p>日本経営工学会 2016 年秋季大会は日本教育会館にて開催され、日本 IE 協会年次大会との共同開催のため、今年は企業の参加者が多く、実務者との情報・意見交換がよくできた。この大会に参加し、「一般職業適性検査 GATB 結果とセル生産の作業効率との関連に関する考察」を題とする論文を発表した。</p> <p>経済の成熟化と新興国の競争力の向上に伴い、生産システムの変革が求められている。変種変量の市場ニーズを効率的・俊敏的に対応するために、数多くの企業においてはセル生産方式を採用してきている。セル生産システムの作業セルが高い自己完結性を持つために、ライン生産システムに比べて作業員一人あたりの作業担当、責任範囲が広くなり、セルの生産性は作業者の技能・適性から強く影響される。セル生産に関しては、これまでにセルの編成方法やセル生産システム設計などの技術的課題を中心として多数の研究が行われてきた。作業適性などの人的要因に関する研究は、著者の研究を除いてほとんど見られなく、十分に研究されたとは言えない。</p> <p>そこで、本研究では、実験研究手法を用いて、一般職業適性検査 (GATB) 結果とセル生産の作業効率との関連を調べた。主成分分析手法を用いて解析し。運動共応 (K) を除いた 6 つの適性得点は作業者の認知・知覚能力として作業効率に有意に関連することを明らかにした。</p> <p>自分の論文発表の他に、セッションの司会を担当し、支部運営会にも出席した。</p>